

# ガバナー月信



## 月信 4月号

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| ① ガバナーメッセージ           | ⑧ クラブ近況報告(長岡東 RC) |
| ② 分区再編検討委員会の立ち上げについて  | ⑨ クラブ近況報告(直江津 RC) |
| ③ クラブ近況報告(中条 RC)      | ⑩ 会員数及び出席報告       |
| ④ クラブ近況報告(新潟北 RC)     | ⑪ 地区主要行事予定(4月・5月) |
| ⑤ クラブ近況報告(佐渡南 RC)     | ⑫ 新入会員紹介          |
| ⑥ クラブ近況報告(阿賀野川ライン RC) | ⑬ コーディネーターニュース    |
| ⑦ クラブ近況報告(分水 RC)      | ⑭ ハイライトよねやま       |

国際ロータリー第 2560 地区  
2021-22 年度

**高尾ガバナー事務所**

新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F  
TEL: 025-222-2561 FAX: 025-222-2565



## 地区運営改革と4月「母子の健康月間」に寄せて

国際ロータリー第2560地区  
2021-22年度ガバナー

**高尾 茂典** (新潟中央 RC)

厳しい冬から温かい日差しに春の香り漂う季節を迎え、軽やかな心で仕事に励み、又ご家庭での楽しみやスポーツにも存分に向き合える時節となりました。

2年余りに渡っての、目に見えないコロナウイルスと戦いの中で感染防止をしっかりと対策しながらも、ロータリーの活動を休まず、今出来ることを考えながら取り組んでおります。ガバナー公式訪問を終え印象に残ったことは、各クラブの取り組みの個性の豊かさです。例えば、会員数の少ない10人未満のクラブが4つありますが、それぞれのクラブは会員同士の信頼も強く、お互いを理解しクラブ活動・ロータリーライフを楽しんでいらっしゃいます。しかし、10名余りの会員数のクラブの中で活動継続が厳しいクラブもあるようです。昨年、頸北 RC が突然終息という大変残念な結果になりました。地区としても昨年、分区再編検討委員会をガバナー直轄の地区組織の中に急遽設け、渡辺パストガバナーを委員長にお迎えし、関係各位からご理解を頂きながら、地区の将来に向けての問題点などを検討し、対応を進めております。

今月は、「母子の健康」月間です。毎年、5歳未満で命を落とす子どもは、世界で推定590万人おり、栄養失調、適切な医療や衛生設備の欠如など、どれも予防が可能なものが原因です。ロータリーは教育や予防接種、出産キッド、移動クリニックの提供等あらゆる方法により、母子の健康を推進しています。引き続き、ご理解を賜りますよう宜しくお願いいたします。

また、2021-22年度の地区大会は、当初の昨年10月の予定から延期を余儀なくされ、4月16日(土)、17日(日)の2日間で開催いたします。2度3度とリアルに参加頂ける人数も制限し、プログラムについても大幅に縮小させて頂きました。オンライン参加者も含め、地区最大の全員参加の行事になります。会員皆様のご参加をお待ち致しております。



## 分区再編検討委員会の立ち上げについて

国際ロータリー第 2560 地区  
2021-22 年度 地区幹事

浅妻 信 (新潟中央 RC)

日本全体で、人口減少と少子高齢化が急速に進む中であって、地域間格差、特に都市と地方の格差の拡大が指摘されています。地方の活性化も期待どおりには進んでいないのが現状で、当地区でも会員の高齢化、会員の減少などの問題を抱え、クラブの運営に危機感を持っている方も多いと思われます。佐藤年度での頸北クラブの脱会は、我々地区役員にも寝耳に水の出来事で、皆様にも大きな衝撃を与えたことと思います。

鈴木重吉パストガバナーを委員長とする地区運営改善検討委員会では、高尾年度当初よりこの問題に取り組み、スモールクラブへの支援のあり方、高齢会員等への配慮のあり方などを通じて、いかにクラブ活動の活性化に繋げるかの議論を進めてきました。また、それと同時に、地区内では単独で会員数が 100 名を超えるクラブがある一方で、全体で 100 名にも満たない分区があることなど、市町村の大合併からも 15 年以上経過し、社会のあり方とともに分区間のバランスも大きく変わっていることを認識いたしました。この分区間格差が、ガバナー輩出の体制等に大きな影響を与えているのは言うまでもありません。

スモールクラブの問題や、分区間に生じている格差に関し、事態を重く見た高尾ガバナーが、「地区の分区再編を検討すべきではないか」と地区運営改善検討委員会に諮問し、その答申を受けて、年度の途中であります。ガバナーより地区の委員会として立ち上げることになりました。委員長には渡辺敏彦パストガバナーが指名され、2022 年 3 月 15 日に最初の委員会が開催されたところです。

名称から誤解を与えることがないように、最初にお断りをさせていただきますが、決して再編ありきの委員会ではありません。ロータリー活動の主体は各クラブであり、クラブの活性化が地区の活性化に繋がるという大前提のもと、分区再編も視野に、30～40 年後の姿を見据えて各方面から検討を行う委員会です。皆様のご意見も拝聴しながら、より良い地区になるよう活動していきますので、ご意見がありましたらどうぞ地区事務所までお寄せください。



## コロナ禍でのクラブ活動報告

中条ロータリークラブ  
会長 石川 まさみ

「ロータリー活動は止めない」という今年度のテーマを掲げ、なかなか収束しないコロナ禍で始まった高尾年度。

最近、昼食持ち帰りで 30～40 分の短縮例会です。さすがに新潟県のまん延防止等重点措置発令中は、休会としました。しかし、そのような時でしたが、9 月には若い 2 人の新会員を迎える事が出来ました。

親睦の機会としては、夜間移動例会で 8 月に中条プロバスケットボールクラブの会員と恒例の合同納涼会、1 月の新年家族会では感染予防対策を徹底して開催する事が出来ました。

また、財団地区補助金事業は、2 月にコロナ禍でさらに需要が高まった“フードバンクたいない設立支援”として、パンフレットを作成し、多くの方に運営協力を願い、継続した支援になるよう協力、胎内市への広報誌への折り込みや福祉施設、協力企業に置いて頂き、広く市民に知ってもらえるようにしました。

社会奉仕事業としては、12 月にフードバンクたいないへ精米機と会員で持ち寄った食料や物資を寄贈しました。2 月には中条胎内ロータリークラブと合同で、胎内市地区と村上市荒川地区の保育園、幼稚園児にコロナ感染防止キャラクター付マスク 3300 枚を寄贈することで大変喜んで頂き、ロータリー活動を知って頂く良い機会であったように思います。

青少年奉仕事業としては、恒例であった新人野球大会、バレーボール大会が中止となった為にスポーツ用品券を胎内市内 4 中学校に寄贈、コロナ禍でも時を見据えた活動を今できる活動を続けています。

一日も早く、また通常例会や活動が出来る日を願って。



## クラブ近況報告

新潟北ロータリークラブ  
会長 佐藤 虎幸

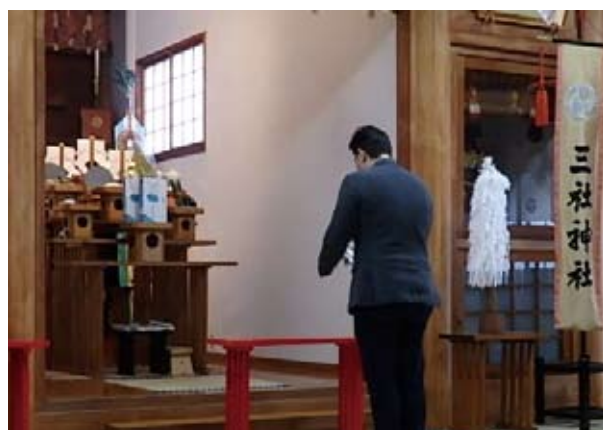
依然として、新型コロナウイルスの感染拡大により、クラブ活動も計画しては延期を余儀なくされておりますが、あっという間に3月となりました。

今期のクラブの例会状況としましては、会場へのリアル参加（食事あり）と ZOOM を活用したオンライン参加とのハイブリッド型で例会を開催しております。会場は、ソーシャルディスタンスと飛沫対策などの感染対策を施して開催しておりました。

適時、感染拡大防止の為に休会を挟みましたが、それ以外は、予定通り開催をしております。外部の卓話者をお呼び出来ておりませんが、食事をとりながらの各近況報告、ロータリアン同士の交流など、情報交換をしながら親睦を図っております。休会を挟んでの開催の時など、皆さん顔を合わせると、なんだかほっとして嬉しそうに感じます。

丁度、警報の解除後、感染者数の減少にあわせて忘年夜例会の開催、新年隆盛祈願例会を行う事が出来ました。

当クラブは、創立 45 周年を迎えるにあたり、45 周年記念例会を 5 月に予定しております。6 月にはロータリー奉仕デーも予定がございますので、後半に予定しております行事がしっかりと執り行われる事を期待して、計画準備を進めていきたいと思っております。





## 佐渡南 RC 旗争奪 少年野球大会を開催しました

佐渡南ロータリークラブ  
幹事 本間 寿正

2021年9月26日に佐渡南 RC 旗争奪少年野球大会を開催しました。一昨年の天候不良による中止に続き、昨年もコロナ禍で開催できていないという状況の中で、コロナ禍は続いているものの、市内においては感染状況が比較的落ち着いているという事もあり、何とか子供たちに試合の機会を提供したいという思いで今年は開催を決断いたしました。

当日は、佐渡市内8チームから参加をいただき、佐渡南 RC から10名ほどが会場に参集し、スコアボード等のお手伝いをしました。

途中天候が急変し、各チーム1試合を行った時点で中止ということにはなってしまいましたが、子供たちが楽しそうに、そして一生懸命に白球を追いかける姿、それをやさしく応援するご家族のみなさんの姿を目の当たりにして、開催して良かったと強く感じました。

2021年は佐渡市出身の関取の誕生、そしてプロ野球選手の誕生というスポーツに関する明るい話題で島が盛り上がりました。島の宝である子供たちのために、その可能性を最大限広げるために、今後とも佐渡南 RC としてできることを続けていきたいと考えています。

2022年2月には、世界文化遺産登録を目指す「佐渡島の金山」の国内推薦が決定されました。各クラブの皆様方におかれましては、2023年夏の世界遺産登録決定にむけて、ご声援等いただければ幸いです。





## クラブ近況報告

阿賀野川ラインロータリークラブ  
会長 清野 修栄

前年度から引き続き COVID-19 の感染拡大に伴い、どのクラブにおいてもクラブ運営が難しいと思います。当クラブは会員数も少ないので、感染対策を徹底しながら通常通り例会を開催しております。

9 月に高尾ガバナーをお迎えし、親クラブである五泉ロータリークラブと合同で高尾ガバナー公式訪問が開催できました。直接お会いしてお話しでき、また適切なご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

また、11 月には地区補助金を利用し、ボッチャ交流会を開催することもできました。参加者の中には、障がいにより負けることでパニックになるお子さんもいましたが、この交流会をきっかけに家族で 2 か月間練習し、交流会当日はパニックを起こすことなく、家族でハイタッチをして喜ぶ姿も見受けられました。ボッチャを通し、障がいの有無や年代に関わらず交流を深められた事を大変嬉しく思っております。今回の交流会でボッチャを 2 セット協力団体へ寄贈し、さっそく阿賀野市内の小学校等で使っていただいております。色々な世代の方はもちろん、障がいがある方にもどんどん参加していただき、活躍の場を作ってほしいと願っております。



他、台北の姉妹クラブと 20 年間、毎年交流を続けてきましたが、この 2 年間、国際交流が出来ませんでした。今年もなかなか難しく、とても残念に思います。早くこの状況が元通りになるようにと願っております。





## 地元分水高校との協働事業 「フードバンク活動」報告

分水ロータリークラブ  
会長 下村 克実

分水 RC で実施いたしました、ロータリー財団地区補助金プロジェクト「分水地区におけるフードバンク活動（児童・生徒のいる要支援家庭への食糧援助事業）」についてご報告させていただきます。具体的な活動としては、地元分水高校との協働事業「新潟県フードバンク連絡協議会への食料品贈呈」となります。

2021年11月17日（水）、分水高校2学年の生徒3名、ボランティア部の顧問教諭、そして当クラブの青少年奉仕委員長、社会奉仕副委員長らと一緒に、新潟県フードバンク連絡協議会三条事務局に食料品などをお届けしてまいりました。贈呈した品目は、分水高校ボランティア部生徒と一緒に稲刈りした新米300kg、分水RCの家族芋掘り体験にて収穫したサツマイモ80kg、また当クラブのフードドライブで集めた食料品と寄付金、そして昨年度に地元中学校のご協力により収集した中学生用の制服約20着などです。

当日は晴天に恵まれ、贈呈式の後、フードバンク三条の食糧庫に、かなりの分量になっておりました食料品などを収める作業も生徒と一緒に行いました。その後、フードバンク活動について実際の支援現場にて高校生と共に、見て、聞いて、学んでまいりました。

生徒、担当教諭とも、とてもいい学びの機会になったとのことで、大変喜んでいただき、ぜひ来年度以降も一緒に続けていきたいとお話をいただきました。







## 「放課後子どもいきいき応援プロジェクト」を実施

長岡東ロータリークラブ  
会長 難波 善行

COVID-19 禍が続く中、各クラブに於かれてはロータリー活動に様々な工夫をされていることと思います。当クラブに於いても、夜例会や移動例会、長岡市内 4 クラブでの合同例会など、延期や中止が続いております。短縮例会を行うなど思うような活動ができずに、歯がゆく感じる場面もありますが、今年度の活動も終盤を迎えました。

これらの制約された活動の中で、当クラブは地区補助金を活用しながら、長岡市教育委員会と歩調を合わせ、「放課後子どもいきいき応援プロジェクト」を今年度も実施しました。

当事業は、保護者が就労等の事情により、放課後帰宅しても保護者が不在となる小学生をお預かりする放課後児童クラブのニーズを把握し、一輪車や竹馬、バトミントンラケットなど、それぞれにあった物品を贈呈する事業となっております。

長岡市内に於いて、53 箇所、約 3000 名の児童が放課後児童クラブを利用しております。多様化する家庭環境において、子どもの健全な育成に、ロータリーとして協力できていると感じております。

例会に於いて、ロータリアン同士が交流を持つことが、これらの地域活動のベースとして重要であり、その交流の結果、地域にアウトプットを行うことも重要であると思っております。四つのテストの「みんなのためになるかどうか」という活動であると考えます。

今後も、制約された条件の中で、ロータリアンが交流を持ち、楽しくロータリー活動を行える環境を作りたいと思っております。





## クラブの近況報告

直江津ロータリークラブ  
会長 稲垣 研二

本年度、直江津ロータリークラブでは、【地区運営方針】『ロータリーを学び、ロータリーを広げよう』を受けて、クラブ目標『持続可能な奉仕活動の実践』を掲げてスタートしました。60周年を契機に会員増強に取り組んできたことと、世代交代が進んできたことで入会年数が4年以下の会員が多くなってきている現状を踏まえ、先ずロータリーを学び、ロータリーを知ることが必要と考え、例会卓話に力を入れ、バラエティ豊かな外部講師から卓話をいただき、会員から例会に出席したいと思っただけのよう取り組んでおります。

COVID-19の感染拡大の中、なんとか前期は制限を受けながらも活動することができましたが、年が明け後期に入った途端に、新潟県にもまん延防止等重点措置が発令され、上越市内でも感染者数が急増するなどの状況となり、2月はほぼ活動休止となってしまいました。3月に入り、まん延防止等重点措置が解除されたことを踏まえ、活動を再開しました。3月中旬を過ぎても、感染拡大は収まる気配を見せませんが、感染対策を十分に行った上で活動していきたいと考えております。

残り4分の1となりましたが、今後は「広げる」活動に重点を置き、ロータリー奉仕デーの活動や社会奉仕活動を実践し、ローターアクトとの交流などにも力を入れていきたいと考えております。



第2560地区 2021-22年度2月末 会員数および出席報告

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会員数			
			2021年 7月1日	2月末 会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)	／	-	372	378	33	6
新発田	0	28.0%	93	93	0	0
村上	0	17.9%	38	39	9	1
水原	0	21.9%	32	32	1	0
中条	1	95.5%	41	44	3	3
新発田城南	1	21.1%	40	38	3	-2
豊栄	1	12.5%	20	24	2	4
新発田中央	2	4.4%	44	45	4	1
中条胎内	3	52.8%	36	36	6	0
村上岩船	4	25.9%	28	27	5	-1
第2分区(9クラブ)	／	-	433	449	25	16
新潟	4	23.9%	82	88	2	6
新潟東	1	16.4%	62	67	8	5
新潟南	3	32.4%	105	108	3	3
佐渡	2	100.0%	6	5	0	-1
新潟西	4	50.0%	39	40	2	1
佐渡南	1	12.2%	40	41	4	1
新潟北	2	28.9%	37	38	0	1
新潟中央	3	38.1%	21	21	0	0
新潟万代	3	53.7%	41	41	6	0
第3分区(6クラブ)	／	-	97	100	5	3
新津	0	11.8%	17	17	1	0
村松	4	63.6%	12	11	0	-1
五泉	4	0.0%	11	11	1	0
白根	4	30.0%	29	31	1	2
新津中央	0	29.2%	22	24	2	2
阿賀野川ライン	2	0.0%	6	6	0	0
第4分区(11クラブ)	／	-	366	363	28	-3
三条	3	12.3%	56	57	0	1
燕	3	6.1%	34	33	3	-1
加茂	0	8.6%	33	35	6	2
三条南	1	15.4%	44	39	2	-5
分水	0	79.3%	29	29	4	0
見附	3	4.8%	21	21	1	0
吉田	3	6.7%	28	30	3	2
三条北	1	5.4%	58	56	2	-2
巻	1	0.0%	25	24	3	-1
田上あじさい	4	14.3%	7	6	1	-1
三条東	0	6.1%	31	33	3	2

R C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会員数			
			2021年 7月1日	2月末 会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)	／	-	296	299	24	3
長岡	4	80.0%	45	45	3	0
柏崎	0	2.4%	41	41	0	0
長岡東	2	27.8%	52	54	3	2
柏崎東	0	17.4%	45	46	3	1
栃尾	1	12.0%	25	25	0	0
長岡西	3	20.4%	50	49	3	-1
柏崎中央	3	23.1%	38	39	12	1
第6分区(6クラブ)	／	-	122	125	10	3
十日町	3	28.1%	32	32	4	0
小千谷	0	10.3%	30	29	3	-1
雪国魚沼	3	20.8%	20	24	2	4
十日町北	0	0.0%	18	18	0	0
津南	4	18.8%	16	16	1	0
越後魚沼	4	16.7%	6	6	0	0
第7分区(7クラブ)	／	-	312	323	23	11
高田	2	32.0%	72	75	5	3
直江津	0	31.9%	69	69	6	0
新井妙高	2	11.1%	31	36	1	5
糸魚川	0	72.1%	41	43	3	2
高田東	3	66.7%	36	36	3	0
糸魚川中央	0	55.6%	28	27	0	-1
越後春日山	4	97.2%	35	37	5	2

クラブ数	55	クラブ
7月1日 会員数	1,998	人
2月末 会員数	2,037	人
女性会員数	148	人
純増減会員数	39	人
My Rotaryアカウント登録率	28.6	%

### 地区主要行事予定

2022年3月31日現在

年 月 日		行 事		会 場	
2022年 (R4) 高尾年度	4月	母子の健康月間			
		2	(土)	米山カウンセラー研修会	ANAクラウンプラザホテル新潟
		2	(土)	柏崎中央RC創立20周年記念式典・祝賀会 →6月25日に延期	市民プラザ・柏崎産業文化会館
		9	(土)	ロータリー財団奨学生選考会	万代シルバーホテル
		12	(火)	高尾年度 地区大会記念親睦ゴルフ大会	フォレストカントリー倶楽部
		16	(土)	高尾年度 地区大会1日目/RI会長代理歓迎晩餐会	ANAクラウンプラザホテル新潟
		17	(日)	高尾年度 地区大会2日目	ANAクラウンプラザホテル新潟
		21~22	(木~金)	クラブ活性化セミナー2022	JPタワー
		23	(土)	米山記念奨学生オリエンテーション・歓迎会	ANAクラウンプラザホテル新潟
		24	(日)	PHS(ポール・ハリス・ソサエティ) 認証式	プレミアホテル-TSUBAKI-札幌
	24	(日)	全国インターアクト研修会	オンライン	
	5月	青少年奉仕月間			
		7	(土)	国際奉仕フォーラム ディスカッション	ホテルオークラ新潟
		7	(土)	第4分区IM (外山G補佐・三条北)	ジオ・ワールドVIP
		14	(土)	第5分区IM (笠原G補佐・長岡)	長岡グランドホテル
		14	(土)	加茂RC創立60周年記念式典	清雲亭山重
		21	(土)	高橋年度 地区研修・協議会	ホテルオークラ新潟
		28	(土)	小千谷RC創立60周年記念式典 →延期	グリーンパーク

### 【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
中条胎内	井藤 洋子	2022.03.11	株式会社アダマス	代表取締役	工業用ダイヤモンド砥石製造・販売



年度終盤に向けての、目標(特に会員増強)の進捗状況が気になる時期となりました。仮に、現状、厳しくても、まだまだ、3か月あります。残された期間、どう、行動するのか？やれることは何なのか？ソフトバンクの孫正義さん風に「脳みそがちぎれる」位考えて、地区チームがベクトルを合わせ、スクラム組んで行動に移して行きましょう！！春爛漫です。スプリングに困んで、心弾むような、ワクワク感満載の第四四半期を祈念しています。

ロータリー日本100年史の100人のロータリアン、お読みになりましたでしょうか？ロータリアンの中のロータリアンともいうべきロータリアンのお人となり、ロータリーに対する情熱、諸々のエピソードに触れ、これらの先人やそれぞれの地域、クラブでも、ロータリーを愛し活動された先人たちの歴史があつて、私たちが、今、ロータリーを思う存分享受できる環境があるのだと感謝の気持ちで胸が熱くなってきました。日本の100人以外にも、ノーベル賞受賞者、各国財界人・文化人、35代ケネディ米大統領を含む多くの各国首脳など、一度は、お名前を聞いた方々もお出でなのは、皆さんご承知の通りです。正にロータリーは、人材の宝庫だとわかります。そんな方々と、例会で接点を持てたら、どんな会話をするのか。どんなロータリー談をお聞かせいただけるのか。などと考えてしまいました。現実の接点の中でも、尊敬してやまない素晴らしいロータリアンがたくさんお出でです。そんな皆様と同じ空間と時間を共有して交流や意見交換ができ、自己成長に繋げられるのもロータリークラブの大きな魅力です。自己成長から事業、業界の向上へ、ひいては社会の発展へと。それも、クラブ、地域、地区、国を超えての接点です。胸襟を開いて、自ら行動すると大きなチャンス、気づき、学びがあります。様々な機会を捉えて、交流しないのは勿体ないし、将来の行くべき道と目指すべき人とモデリングしないのは勿体ないと素直に思うと同時に、これらの方々や接点からの交流はロータリークラブでの宝物だと感じています。そんな魅力を楽しんでいる私たちが、それぞれが感じるロータリーの魅力をそれぞれのことばで、熱く、どんな環境であれ、他人任せにしないで数多の方々にもっともっと熱心に話していければ、いや、話さないといけない！と感じています。

さて、国立社会保障・人口問題研究所による2045年の推計人口を見ると、

全国 2015年 127,094,745人 2045年 106,421,185人 (83.7%)

秋田県 2015年 1,023,119人 2045年 601,649人 (58.8%)最大減少県

地方においては、人と同じく、本社の県外流出が起きているとの話も聞きます。人口が減るということは、入会対象者の数にも、企業数にも大きな影響が出ると容易に想像できます。今、外的環境がコロナで厳しいのですが、今後、コロナが収束しても、人口問題、後継者問題、企業数問題で、私たちに更なる厳しさが襲ってきます。これからの外的環境はいつか戻るではなく、厳しくなる一方と退路を断って、今まで以上に皆で、もっともっと真剣に増強に向き合うそんな時だとこのコロナが教えてくれたのかも知れません。

国際協議会でジェニファー・ジョーンズRI会長エレクトより2022-23年度RIテーマ「イマジン ロータリー」が発表され、次年度の動きも活発化して、現・次年度とがリレーゾーンに入ってきました。今年度のソフトランディングでしょうか。しかし、トップスピードでのバトンリレーが理想です。

さあ、年度末まで良いイメージをしながら、勿論「目標達成」のシーンをはっきりとビジュアライズして、目標達成の為に、それぞれが感じるロータリーの魅力を、「ロータリークラブにすることで、素晴らしい経験を、素晴らしい仲間を、素晴らしい思い出を、素晴らしい学びを 得たこと」そんなロータリーの魅力を是非、ご自身のことばで熱く数多の皆さまに、また、新会員へも語りましょう。

増強は、高邁なロータリー思想の継承と私たちが享受している素晴らしい環境を次世代に生成発展させ伝え残す最も大切な基本中の基本だと考えます。

「やらなかったのか？物理的にできなかったのか？」自問自答しながら。さあ行動だ！

第1地域 ロータリーコーディネーター補佐 石黒 秀司(郡山RC)



就任前にエバンストンで研修がありました。財団のセッションは当然ですが、同行したRC、RPICと共に毎日合同セッションがありました。即ち国際ロータリーは財団と共にチームでロータリーを推進することを目指していることに、6月末の任期終了を前に強く頷いています。今日は財団に拘った5年余りを三つの質問形式でお答えする事に致します。

<第1の間>：「ロータリー財団と申しますと『寄付ですか』と返ってきます。」何故そんなイメージが出来上がったのでしょうか。

<私の答え>：ロータリー財団は、より良い世界を築こうというビジョンを共有する財団支援者の方々からの自発的な寄付のみによって支えられています。この「自発的な寄付のみ」という部分について、「積極的に」とは書いていないから自分から特別な感情が生まれず限りは寄付をしないでも大丈夫だと考える人が、我が日本には多いことがわかりました。そのため、寄付をお願いすると「また寄付の話だ」と感じる会員が多いような印象がありました。

<第2の間>：PHS（ポール・ハリス・ソサエティー）に入会するにはどうするの。

<私の答え>：My ROTARYから簡単に入会できます。一つアドバイスですが、多くのPHS会員が、次年度以降の寄付を忘れてしまうことがあります。そこで私も忘れ易いので自動定期寄付を利用しています。この場合、日本円での寄付になりますので毎月変わるロータリーレートにご注意下さい。そのロータリー年度に該当の寄付が1,000ドル以上であれば良いのです。この自動定期寄付は（毎年・毎四半期・毎月）と自由に設定できます。ユニセフのマンスリーサポートは毎日100円からでした。PHSは毎日300円程度で「世界で良いことをしよう」と始められたロータリー財団を通じて、世界各地でサポートを待ち望んでいる人々への支援が出来るのです。

<第3の間>：ファンドレイジング（寄付推進）は何故難しいのか。

<私の答え>：例えば、年次基金（シェア）への寄付は地区の3年後の活動資金になるので、少ないと3年後の財源が少なくなります。地区の活動を十分に支えるためにも寄付推進は大切なことですが、クラブにとっては地区の資金の状況を直接実感することがあまり多くなく、この辺のバランスを取る重要性を感じた2年9ヶ月でした。補助金活動やDDFの寄贈など、地区から会員のみなさんへ情報を伝える際に、さらにわかりやすい伝達を心がけていただくことも、寄付推進の成功につながる一つと思います。

最後に毎年、日本の「年次基金寄付ゼロクラブ0」を達成し、継続できましたことを心から感謝御礼申し上げます。今年度も残すところ3ヶ月と少しです。今年もお願いします。

4月23～24日PHS認証式が札幌市で開催されます。札幌でお会いしましょう。

第1地域 RRFC 羽部 大仁(札幌南RC)



## 1. 故・齋藤直美前理事長を偲ぶ

第7代理事長として当奨学事業のために力を尽くし、昨年11月28日に83歳で逝去された齋藤直美氏を偲ぶ会が、2月26日に豊田市内ホテルにて開催されました。辰野克彦RI理事、佐藤芳郎RI理事エレクト、三木 明ロータリー財団管理委員会委員、当会からは若林紀男理事長、水野功副理事長、山崎淳一副理事長、ほか常務理事などが参加し、故・齋藤前理事長の足跡を静かに振り返りました。

偲ぶ会では、豊田RC実行委員長の河本輝雄氏の挨拶につづき、若林理事長に

よるお別れの言葉が述べられました。故人を偲ぶ映像では、ロータリアンそして家業である病院院長としての半生、家庭においてはよき父として、その生涯において多くの人々に影響を与え、親しまれたことが伝わってきました。

また、ロータリー財団管理委員長のジョン F. ジャーム氏による追悼のビデオメッセージの披露、献奏、指名献花、一般献花が行われ、各自が心の中で氏のご冥福を祈り、別れを告げました。



## 2. モンゴル教育界の最高勲章を受章

米山学友のジャンチブ・ガルバドラッハさん(1998-99/山形北RC)が、昨年11月11日、モンゴル教育界における最高の栄誉、「モンゴル国功労者教員賞」をオフナー・フレルスフ大統領から授与されました。ジャンチブさんは2000年にモンゴル初の3年制高校「新モンゴル高校」を設立、その後小中高一貫校となり、さらには高専や工科大学を擁する「新モンゴル学園」として、日本にも多くの留学生を送り出しています。



させることに注力したい。個人としても2019年4月から名古屋大学教育学研究科後期課程(博士課程)に入学し、この目標に添った研究を進め、フィールドワークとしてモンゴル国内8つの公立校を選定し改革を試みています。これからも日本のロータリアンの皆さんに見守っていただきたいです。

### ♪ ジャンチブさんから喜びのコメント

これまでモンゴルの教育のために尽力してきた努力と小さな成果を高く評価していただき、心から嬉しく思うと同時に、一層のパワーがあふれています。この勲章は、これまで新モンゴル学園に関わってきたすべての先生・職員、また生徒たちが残した功績の結果です。私は常に「国造りは人造りから、人造りは教育から」と考えてきました。モンゴルの教育をさらに高めるため、今後は、公立学校の教育の質を向上



### 3. 寄付金速報 — 緩やかに回復傾向 —

2月までの寄付金は前年同期と比べて0.9%減（普通寄付金:0.8%減、特別寄付金:0.9%減）、約940万円の減少となりました。まだ前年度寄付累計額には追い付かないものの、少しずつ好調に推移しています。ご寄付をいただきました

ロータリアンの皆さまに心より感謝申し上げます。コロナ禍の影響は少しずつ回復がみられそうなものの、まだまだ今後の社会情勢を注視しなくてはなりません。引き続き今後ともご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

### 4. 洪水被災者への支援 — マレーシア米山学友会 —

マレーシアでは昨年12月17日から降り続いた豪雨の影響により各地で深刻な浸水被害が発生、10万人以上が避難を余儀なくされました。

これを受けてマレーシア米山学友会では12月31日、パハン州の被災者のためにガスコンロ50台と炊飯器11台を寄贈。黄麗容会長ほか3人が一台一台に学友会のシンボルマークを貼

って送り出した物資は、救援団体を通じて無事に被災者へ届けられました。

さらに1月には、同学友会中央支部（クアラルンプール）がフル・ランガット地区被災者のために約5,000リンギット分の



学友会寄贈の印を貼る黄会長



中央支部（KL）ではフードバンクへ寄贈食料品を寄贈する活動を実施しました。

黄会長は「被災者は資産のほとんどを失い、苦しみはまだ続いています。未来に向けて再び立ち上がる力となるよう、私たち米山学友は最善を尽くしたいです」と、語りました。

### 5. 巣立つ後輩へ — サコさんからスピーチ —



3月1日、第2580地区（東京・沖縄）の期間終了式が開催され、若林英博ガバナーから巣立っていく米山奨学生1人ひとりへ終了証が手渡されました。

この日は、京都精華大学学長を務める米山学友、ウスビ・サコさんをホームカミング制度で招へい。サコさんから後輩に向けて、「日本で居場所を開拓するには」と題した1時間のスピーチがありました。

母国ではない日本において、奨学生たちはどのようなアイデンティティを持って生きていくべきか。ロータリアンはどのように向き合うことができるか。多様性とは何か。各自がピン

トを得ることのできる、大変充実した内容の講演となりました。また、ロータリー米山奨学生学友会（東京）のエンフボルド、ガンエルデネ理事長からは、学友会の活動紹介や積極的な参加のお願いがありました。コロナ禍のため参加人数は限られていましたが、奨学生たち、また、送り出すロータリアンの表情は終始晴れやかでした。

